

時空を超え、万人に愛され続けた上等な笑い。

大蔵流

茂山家狂言会

蝸牛

かぎゅう

茂山あきら、島田洋海、茂山童司

清水

しみず

茂山千三郎、茂山宗彦

千切木

ちぎりき

茂山正邦、茂山逸平、島田洋海
丸石やすし、茂山童司、山下守之
茂山あきら、茂山茂



(C) 上杉遼



(C) 川西善樹



(C) 上杉遼

茂山あきら
茂山千三郎
茂山正邦
茂山宗彦
茂山茂
茂山逸平
茂山童司
丸石やすし
島田洋海
山下守之

7/12(日)開演 14:00 紀南文化会館大ホール

一般:2000円(当日2500円)

高校生以下:500円(当日1000円) 自由席

未就学児の入場はご遠慮願います。

託児所開設(要予約) 6/26 締切
申込み、お問い合わせは田辺市教育委員会文化振興課まで

●チケット発売所(4月24日(金)発売)

紀南文化会館、田辺市教育委員会 文化振興課(市民総合センター3F)、プレジール、上富田文化会館、龍神市民センター、本宮教育事務所
みなべ町中央公民館、中辺路コミュニティセンター、大塔総合文化会館、白浜町教育委員会、日置川拠点公民館、周参見公民館

●遠方の方はチケットの郵送も行っておりますので田辺市教育委員会、文化振興課(0739-26-9943)までお問い合わせ下さい。



主催/田辺市文化協会、田辺市、田辺市教育委員会

お問い合わせ:田辺市教育委員会 文化振興課 TEL0739-26-9943 和歌山県田辺市高雄1-23-1 紀南文化会館 TEL0739-25-3033

大蔵流 茂山家狂言会

蝸牛(かぎゅう)

長命の祖父(おおじ)をもった主人が、カタツムリを食べさせると長生きをするという噂を聞いて、太郎冠者に取りに行かせます。しかし太郎冠者はカタツムリをまだ見たことがありません。そこで主人にカタツムリの特徴を教えてもらい藪へ探しに行きます。するとそこにいたのは、修行を終えて山から帰る途中に昼寝をしていた山伏。その山伏の扮装が教わったカタツムリの格好に一致したため、太郎冠者は山伏をカタツムリだと思い込み連れて帰ろうとしますが…

山伏の扮装と蝸牛(カタツムリ)の姿が似ているという発想が面白く、また扮装が一致するという山伏の説明に納得する太郎冠者のとぼけた仕草が見所のひとつです。



清水(しみず)

お茶の会を開くことになった主人は、お茶の会で使う水を太郎冠者に命じて野中の清水へ汲みに行かせます。お茶の会の度に水を汲みに行かされては迷惑と思った太郎冠者は、「清水に鬼が出た」と嘘をついて逃げて帰ってきます。主人は太郎冠者が置いてきた大切な手桶を惜しがり、自ら清水に行って探してくると言い出します。困った太郎冠者は先回りをして、鬼の面をかぶって主人を脅します。あわてて逃げて帰る主人。一旦は太郎冠者の悪知恵もうまくいくのですが…

太郎冠者が鬼のことを「ガゴゼ」と言いますが、「ガゴゼ」とは奈良の元興寺の訛りです。中世には廃寺となって鬼が住んでいたと信じられていたことから、化物・鬼の類の呼び名になっておりました。



千切木(ちぎりき)

連歌の会を催す主人が、客を集めるため太郎冠者を使わせますが、いつも騒がしく迷惑をかける太郎の所へだけは声をかけぬよう申しつけます。ほどなく客が揃い連歌の会が始まると、招待されなかった太郎が「なぜ声をかけなかったか!」と怒鳴りこんで来ます。その上、花や掛け軸に言いがかりをつけ、その場を退こうとします。とうとう一同も腹をすえかね、太郎をさんざんに打擲(ちようちやく)して追い出すのでした。そこへ太郎の女房が「千切木」を持って駆けつけ、仕返しに行けとけしかけます。太郎はしぶしぶついて来てくれるならば行くので見をし、それぞれの家を訪れます。女房に突つかねながら、気弱な太郎は怖々声をかけるのですが…

「争い果てての千切木」という“時機に遅れて役立たず”との意味の諺からとられた作品です。また千切木とは「乳切木」とも書き、乳の高さで切った棒で、両端が太くっており、荷物を両端に担う時に使います。



茂山あきら



茂山千三郎



茂山正邦



茂山宗彦



茂山 茂



茂山逸平



茂山童司



丸石やすし



島田洋海



山下守之

茂山(千五郎)家は江戸初期から、京都在住の狂言師の家として歴史に残っております。

初代から四代目までは、馬術指南を勤めていたといわれています。五代目から狂言師として記録が残っており、六代目から禁裏御用(御所に出入りを許されている。今でいう「宮内庁御用達」のような家)の能楽師として、京都・奈良を中心に狂言を上演した記録が各地に残っています。九代目の茂山千吾正席が、時の大老・井伊直弼に見いだされ、彦根藩に抱えられます。その時、名を尋ねられ「千吾」と答えたのに大老が「千五郎」と聞き違いをなされ、その時より当主名が「千五郎」となりました。

現在も十三代目の当主・千五郎を中心として、400年にわたり京都に息づいてきた狂言の普及・継承につとめています。

民族性豊かな音楽とサーカスのコラボレーション。未知の感動！

田辺市合併10周年記念
アクロバティック・エンターテインメント
Fantastic Dream
ファンタスティック・ドリーム

モンゴル・ウランバートルサーカス団公演
8/7(金) 開演:18:30 紀南文化会館大ホール
一般 2500円(当日3000円) 学生(高校生以下)・小人 1500円(当日2000円) ~全自由席~

お問い合わせ 田辺市教育委員会 文化振興課 TEL0739-26-9943

